

インド

景気下押し要因がはく落

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail: kumagai.shotaro@jri.co.jp

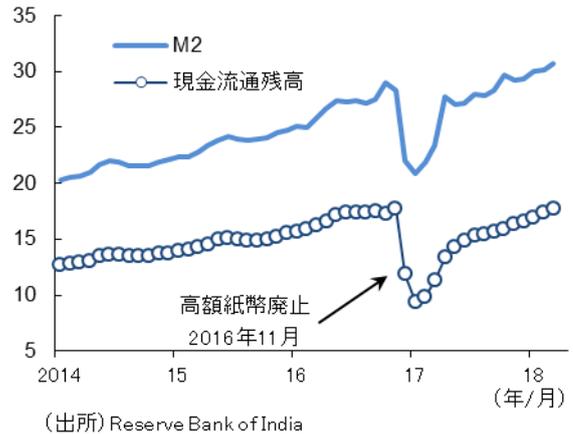
■現金流通残高は高額紙幣廃止以前の水準に復帰

インド景気は、2016年11月の高額紙幣廃止や2017年7月のGST（財・サービス税）の導入に伴う混乱の一巡等を背景に、2017年後半以降、持ち直し傾向が続いている。

現金流通残高は、金額ベースの約85%を占めていた1,000ルピー札と500ルピー札が廃止されて以降、新紙幣の供給の遅れやデジタルバンキングの急拡大等により、緩慢な持ち直しペースが続いていた（右上図）。しかし、景気の持ち直しに加えて、2018年2～3月に実施された州議会選挙に関連した現金での献金活動の活発化の影響もあり、2018年2月に廃止以前とほぼ同水準まで回復した。

他方、金融政策については、景気の持ち直しを受けたインフレ圧力や欧米の金融政策の正常化に伴う資金流出リスクへの警戒感から、中央銀行は、2017年8月に政策金利（レポ金利）を6.0%に引き下げて以降、据え置きを続けている。2018年4月上旬に行われた会合では、前回同様、一人の委員が0.25%ポイントの利上げを主張した。一方、他の委員は、足元の食料物価の上昇ペースが和らぎ、これを反映する形で物価見通しが下方修正されたことを踏まえて、引き続き据え置きを主張した。今後については、モンスーン期（6～9月期）の雨量と農作物生産、国際原油価格の動向などを注視しつつ、景気の基調が力強さを増してくるまで政策金利の据え置きスタンスを維持すると見込まれる。

（兆ルピー） <現金流通残高とM2>

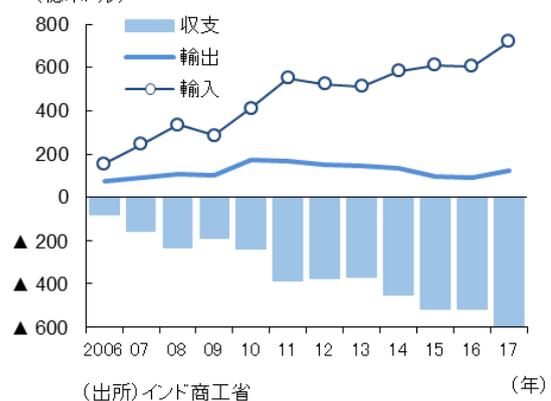


(出所) Reserve Bank of India

■拡大する対中貿易赤字

景気の持ち直しや資源価格の底打ちに伴い、輸入増加が続くなか、対中貿易赤字が注目を集めている。インドの対中貿易・投資依存度は、他のアジア諸国対比低いものの、対中貿易赤字は拡大傾向が続いており、2017年には約600億米ドルとGDPの2%強に達している（右下図）。こうしたなか、3月下旬にデリーで開催されたインド商工省と中国商務省との間の中印経済貿易協力会議では、対外不均衡の是正に向けて、インドの対中輸出促進や中国企業の対印投資促進について議論が交わされた。今後、対外不均衡の是正を糸口として、インドの掲げる「メイク・イン・インド」や中国の掲げる「一帯一路構想」が融合していけば、インド経済における中国のプレゼンスが高まっていくと見込まれる。

（億米ドル） <インドの対中国貿易>



(出所) インド商工省

(年)

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。